

ホーリズム医師を殺したソマリア人警官は、性格異常を知られていた

ミネアポリス警察は、モハメド・ヌーアを採用する前に、彼が「ストレスを制御できない」ことを知っていた

【訳者注】これは一見、些細な事件のようだが、“見どころ”がいくつもある。まず、欧米の現体制で、イスラム教徒を恐れるような風潮がつけられていること（おそらく暴動を醸成するため）。Cf. ニューメキシコの官憲が、明らかに犯罪者の、危険なムスリムを無罪放免した件。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180819.pdf> ロンドンのカーン（ムスリム）市長が、大量の犯罪を野放しにしている件。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180820.pdf>

この異常で無能な、犯罪者警察官が大事にされ、（巧まして）現在の西側政治体制のシンボルになっていること。

ここに言われてはいないが、現在、驚くべき数量のホーリズム医師が、暗殺されていること。こうした医師は、思想的には完全に平和主義であって、恐ろしい毒の注射などをする西洋医学医師とは正反対に、全く安全であるのに、**なぜこれが起こるか？** これは明らかに（反ダーウィン理論のように）「思想犯」である。宇宙的調和、世界の調和、家庭の調和、心の調和を有機的につなぐことが、彼らにとっては許せない犯罪である。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171003.pdf>

ここで先日紹介した、アメリカの恐れる、ロシアの新しい革命的戦略が、ホーリストイックと言われていたことを思い出していただきたい。

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

September 14, 2018



2017年7月15日に、罪のない女性をその自宅で撃って殺した警官は、ミネソタ警察署では、ストレスと怒りを抑えられない性格上の問題をもっていることを知られていたが、署ではそれでも、イスラム教徒差別で告訴されることを恐れて、彼を採用していた。

ホーリスティック治療師 Justine Ruszczyk——別名 Justine Damond、40歳、オーストラリア系米人——は、警官 Mohamed Noor に撃たれて死んだ。それは彼女が、自宅近くの路地で起こった襲撃らしいものを知らせようと、警察を呼んだときだった。

ヌーア（当時32歳）が、同僚の Matthew Harrity 警官と現場に到着したとき、ダモンドは玄関に出て彼らを迎えた。

この射殺を調査している、ミネソタ犯罪捜査局の説明によれば、2人の警官はパトロールカーのライトを消して、襲撃容疑者を探しながら路地をパトロールしていた。

「ハリティ警官は、パトロールカーの近くで大きな音がして驚いたと指摘した」と、声明は述べている。

そのすぐ後、ダモンド女史が、「警察車の運転手側の窓に近づいてきた。ハリティは、ヌーア警官が武器を発砲した」——開けられた運転手側窓から、近づいてきた彼女に向かって、そして彼女は致命的な負傷を負った、と言っている。



殺されたジャスティン・ダモンド
に正義を要求する抗議者のキャン
ペーン

PJ メディアによれば、ミネアポリス市は、ソマリア人ムスリムの警察官をどうしても採用
したかったので、この職務には明らかに不適切な男を雇用することにした。

<chrome-extension://ecabifbgmdmgdllomnfinbmaellmclnh/data/reader/index.html?id=212>

しかも、彼が実際に警官には不向きと証明された後も、彼らは彼を解雇しなかった。

Fox News によれば、「このジャスティン・ダモンドを射殺したことで告訴された、前ミネア
ポリス警察官は、かつて、交通警察の一時停止のときに、運転者の頭に銃を突きつけたこと
があり、時々、(命令の)電話を無視したことが裁判調書から判明し、精神分析医やトレー
ニング係官は、彼の仕事への適性について憂慮を表明していた。」

<http://www.foxnews.com/us/2018/09/06/former-minneapolis-cops-behavior-before-shooting-death-australian-woman-raised-concerns-court-filings-say.html>

それだけでなく、「モハメド・ヌーアは、2015年、雇用前の予備試験を受けたとき、2人の
精神分析医から落とされていた。医師らによると、彼は、通常の警察の職務のストレスを処
理することができないようであり、人々に応対することが苦手であることを示した」という。

しかし、どうしてか彼は雇用された。この決定の愚かさは、ほとんど直ちに、わかるものだ
ったにもかかわらず。

「この事件の2か月前にも、ヌーアは、あるドライバーの頭に銃を突き付けて車を止めさ
せたが、それは彼が、自転車に乗った人に指を立てて追い越し、信号で合図しなかったから
だと言われている。」

ミネアポリスの警察署と市の職員は、モハメド・ヌーアに継続してやってもらいたかったの
で、彼はそのまま居座り、出世コースを卒業し、何よりもまず職場にいられるようにした。

<http://www.startribune.com/minneapolis-police-face-questions-about-noor-s-fast-track-training/436057173/>

彼はミネアポリス警察署に勤める、最初のソマリア人ムスリムだった。2016年、ミネアポリス市長 Betsy Hodges は、この事実についての興奮をこう言い現わした：――

「私はちょっと時間を借りて、ミネアポリス警察署の最新のソマリア人警官、モハメド・ヌーア警官を承認したい。ヌーア警官は、第5管区に配属されており、彼の着任は大歓迎され、Karmel Mall あたりのソマリア人居住区からは、とくに祝福されています。」

直接、我々と契約して、インターネット検閲を避けて下さい。

ホッジズ市長は慌てなかったが、それはモハメド・ヌーアが、すぐれた警官になるのに必要なスキルを、もっていたからである。

彼女が不安だったのは、ただ、彼女がひいきにしていた民族と宗教集団を、彼が代表していたことだった。

実は、彼の警察官としての能力は、常に、彼の民族と宗教の二の次だった。

そのように、彼は、2年間に3件の告訴が彼に対して起こされたにもかかわらず、この職場にいた。<http://nypost.com/2017/07/18/cop-who-killed-bride-to-be-had-three-complaints-against-him/>

隣人の証言によると：「彼は極端に神経質です。…ちょっと落ち着きがない…彼は女性に対して敬意を払わない、彼に対して言ったどんな些細なことでも、腹を立てるのです。」

<http://www.dailytelegraph.com.au/news/world/neighbour-of-justine-damonds-killer-gives-shocking-new-insight-into-his-behaviour/news-story/34eb2c08676af98afc376d83aaff31dd?nk=5d1cf0ed01da1aaef281d3235c1d0254-1500825894>

この隣人が、ヌーアが武器を持たない女性を撃った警官だと聞いたとき、彼は驚かなかった：――「ある警官がアメリカ婦人を撃ったと聞いたとき、私はうーんと考え込んだ。しかし、それが誰だったかを聞いたとき、〈なるほど〉と納得したよ。」



8月、ミネアポリスで、ジャスティン・ダモンドのための追悼式で、ディジュリドゥーが吹き鳴らされている

モハメド・ヌーアの警官職へも不適切さが、いくら指摘されても、それは問題でなかった。

彼らはあまりにも彼の成功に投資していたので、彼らの多様性と多文化主義の実験は、みじめな失敗だったことが、彼らには認められなかった。

ヌーアは、我々の栄光ある多文化モザイクのシンボルだった。

彼は“イスラム嫌い”を叱るものであり、人々の言っていることが間違っている証拠だった。

彼は、ミネアポリス官憲にとって、彼らの世界観の勝利以外の何物でもなかった。

明らかに、彼は、どんなことをしても警察署から追われることはあり得なかつただろう——ジャスティン・ダモンドを殺すまでは。

しかし、そのときでさえ、彼は射殺後、数か月間は職にあった。

ヌーアは、ミネアポリス市長、ベッツィ・ホッジスの事務所に堂々と入り込み、彼女は今後、自分の奴隷だと言い、自分がそこに居座ることもできたであろう。

もし、ミネアポリス警察署が、その職務の適性に基ついて雇用や解雇を行い、ミネアポリスの多様性支持のシンボルとして役立つとか、“イスラム嫌い”との戦いの決意に基くものでなかったら、ジャスティン・ダモンドは今も生きているであろう。

この事件をきっかけとして、その民族や宗教のために、無能な警察官を雇用するようなことは、やめるべきである。しかし、そうはならないだろう。